

仲間と喜びを分かち合う

「自分の球速に自信はありましたが、最終選考に残った選手は上手い人が多く、ジュニアチームに入れるかは五分五分だと考えていました。選抜されたときは本当にうれしかったです」と振り返る秋山君。球速120^{km/h}を超える直球を武器に、平成27年の北海道日本ハムファイターズジュニアチームに選抜されました。

秋山君が野球を始めたのは3歳のころ。野球をしているお父さんやお兄さんに誘われて、遊び感覚でやってみたのがきっかけだそうです。その後、7歳の時に『登別富岸ファイターズ』に入り、初めて出た練習試合で、野球の面白さに気付いたと言います。

「徒競走などは違って、野球は勝った時に仲間と喜びを分かち合つことができます。その喜びをもっと味わいたくて、チームの勝利に少しでも役に立てるように、一生懸命練習しました」。

日々、熱心に練習を続けている秋山君は、現在では速球投手として活躍しています。

一方で、守備が苦手だと語る秋山君。ジュニアチームの練習に参加したときに、メンバーの守備の



▲球速120^{km/h}を超える直球を武器に投手として活躍する秋山君。

上手さに驚いたそうです。「野球は投手だけでは勝てず、守備が重要です。守備はポジシヨンごとの連携が大切で、あらためて野球がチームスポーツだと気付かされました」。

将来の夢に向かって

今までの野球生活を振り返り、お父さんの存在が大きかったという秋山君は、「ジュニアチームに選抜されたのは、家族や仲間のおかげだと思っています。野球はチームスポーツなので、周りの人との協力の大切さを忘れないようにしたいです」と話します。

将来、プロ野球選手になりたいと語る秋山君は、これからも周りの人との関係を大切にしながら、夢に向かって突き進みます。



KIRARI

あき やま しゅん
秋山 俊 君(富岸町)

平成17年から毎年開催されている『NPB12球団ジュニアトーナメント』は、プロ野球12球団が球団ごとに出場選手を募集して小学5・6年生のジュニアチームを結成し、グループリーグや決勝トーナメントを行って優勝球団を決める大会です。全国の野球少年の精鋭が集まるこの大会に、登別市の選手が出場しています。

『登別富岸ファイターズ』に所属する秋山君は、平成27年に『北海道日本ハムファイターズジュニアチーム出場候補セレクション』に挑戦し、900人を超える応募者の中から、18人の出場選手に選抜され、年末に宮崎県で行われた大会に参加しました。

今回は、ジュニアチームに選抜されて感じたことや野球への思いについて秋山君に伺いました。

周りの人との関係を大切にし、夢に向かって野球に取り組む。



平成15年、登別市生まれ。12歳。

父や兄の勧めにより、7歳の時に『登別富岸ファイターズ』に加入。持ち前の速球や肩の強さ、足の速さを生かし、投手、捕手、遊撃手としてチームを引っ張っている。